

氏名	井 久 保 卯
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3425 号
学位授与の日付	平成 12 年 3 月 25 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	<i>In Vitro</i> Evaluation of Antimicrotubule Agents in Human Small-Cell Lung Cancer Cell Lines (ヒト肺小細胞癌の細胞株に対する微小管阻害剤の効果の検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 清水 信義 教授 難波 正義

#### 学位論文内容の要旨

肺小細胞癌(SCLC)の薬剤耐性を克服する目的で、今回7種類のSCLC細胞株に対する微小管阻害剤の抗腫瘍効果を検討した。そのうち、抗癌剤に感受性の細胞株としては治療歴のない患者から樹立したもの(SBC-3)、抗癌剤に自然耐性の細胞株としては治療歴のある患者からのもの(SBC-2、SBC-4、SBC-7)、抗癌剤に獲得耐性の細胞株としてはSBC-3に対してそれぞれdoxorubicin、etoposide、cisplatinを持続接触して得られたもの(SBC-3/ADM、SBC-3/ETP、SBC-3/CDDP)を用いた。微小管阻害剤のSBC-2、-3、-4、-7に対する50%抑制濃度(IC50)は、ADM、ETP、CDDPに比べ著しく低かった。SBC-3/ADMとSBC-3/ETPはrhizoxin以外の微小管阻害剤に対して強い交叉耐性を示したが、rhizoxinに対しての交叉耐性はSBC-3/ADMでは不十分、SBC-3/ETPでは認めなかった。SBC-3/CDDPは微小管阻害剤に対して交叉耐性を示さなかった。以上より微小管阻害剤はSCLCに有効で、特にrhizoxinは再発例等のsalvage treatmentとして有効と思われた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、肺小細胞癌(SCLC)の薬剤耐性を克服する目的で、7種類のSCLC細胞株に対する微小管阻害剤の抗腫瘍効果を検討したものであるが、従来、ほとんど無効とされていた微小管阻害剤の中で、SCLCに有効であるものもあり、なかでもrhizoxinは再発例等のsalvage treatmentとして特に有効と判断できる新知見を得ており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。